

民生委員・児童委員の候補者発掘策について
(平成 30 年 9 月 13 日 第 3 回作業部会 まとめ)

1 自治会・町会、学校、PTA からの候補者の推薦

- ・ 地域の実情や住民の情報は自治会長が一番把握しているため、全て自治会から推薦をあげていただいている。
- ・ 推薦母体は町会だが、退任の際には後任を探しておくことを民生委員が心掛けています。PTA や青少年育成会等から後任を探し、町会の推薦と照らし合わせながら全体で決める。
- ・ 民生委員の推薦について町会長を集めて話し合いを持った。
- ・ 町会や行政に働きかけ、町会や行政と民生委員と一緒に候補者を探す雰囲気作りをしている。

2 福祉活動を行う団体からの候補者の推薦

- ・ 欠員地区の社会福祉法人の理事長と民生委員が話し合い、社会福祉法人のボランティアの中から適任者を民生委員として推薦していただくよう依頼を始めた。
- ・ ボランティア団体等には民生委員をやりたい方がいるが、ほしい地域に在住されていないことがあり、結局は町会やPTA、学校の関係から推薦を受けている。
- ・ 社協やNPO等へアプローチしていくなど関係づくりをする必要がある。

3 上記以外の候補者の推薦

- ・ 町会の推薦を受けている地域はほとんどなく、民生委員やOB、PTA関係者、学校の先生等から紹介を受け、候補者一覧を持って行政が説得に回っている。
- ・ 自治会・町会からの推薦はない。民生委員が後任を見つけたり地区の中で見つけていただくようになっているが、強制ではない。
- ・ 退任の際には後任を探すよう代表会長が全体会で呼びかけている。

4 区市町村行政による関係団体等の依頼、PR

- ・ 自治会連合会の会議に出席し、一斉改選に向けて推薦を依頼することを予定している。
- ・ 地域ケアネットワークの中に自治会・町会や学校、社協、福祉団体といった様々な団体が入っており、それらの集まりにおいて候補者を紹介していただくようPRしている。

- ・ 今回の改選では、商工会、農協関係、教育関係等、福祉関係以外の団体にも積極的にアピールすることを考えている。
- ・ 民生委員に依頼をしている庁内の部署を集めて連絡会を開催し、民生委員の必要性を共有し、各部署でも探してもらうことを期待している。
- ・ PRに行ける団体や会議があれば紹介していただき、事務局に出向いてPRすることを考えている。

5 民生委員の理解を深める取り組み

- ・ 大学でコミュニティーカフェを立ち上げ、民生委員や学生が参加している。こういった開かれたネットワークを活用し、そこに自治会にも入っていただき、自治会長にはネットワークの一人として活動していただけるようにできればいい。
- ・ 徳島では子ども民生委員を実施しており、最近各地でも同じような取り組みが始まっている。また、大学でキャンパスに地域の方を入れ込むプログラムが実施された。地域との日常の関わりの中で民生委員を理解してもらう下地を作っていくのがいい。

6 その他意見

- ・ 欠員が無いように候補者を発掘していかなければならないが、欠員を生じってしまったとき、その地区を誰がどうやってカバーするかという問題を最終的には考えないとならない。
- ・ 一斉改選に際しては準備期間における現状把握が大事。